

基準 9. 教育研究環境

9-1 教育研究目的を達成するために必要なキャンパス（校地、運動場、校舎等の施設設備）が整備され、適切に維持、運営されていること。

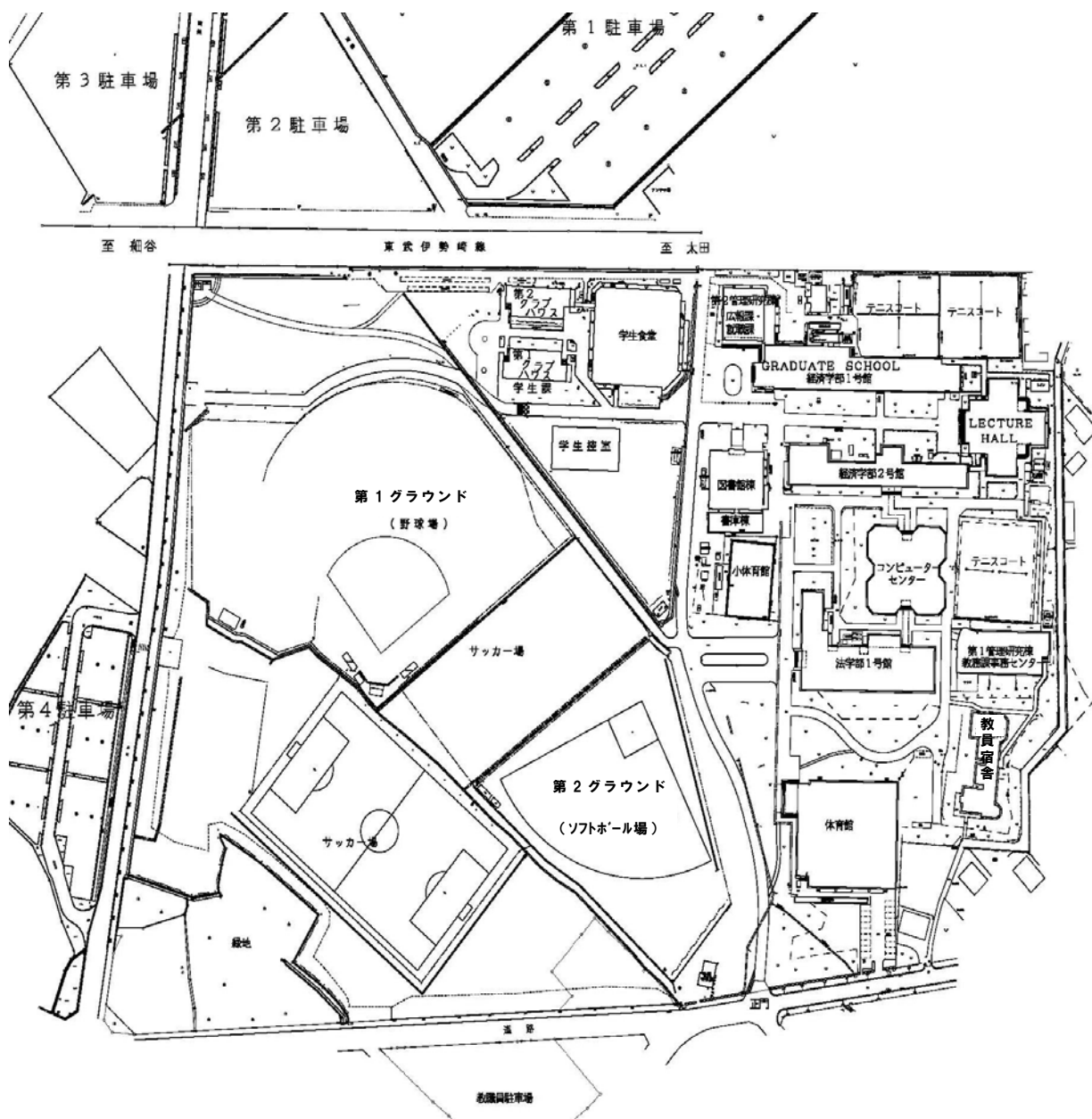
《9-1の視点》

(1) 9-1の事実の説明（現状）

9-1-① 校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、附属施設等、教育研究活動の目的を達成するための施設設備が適切に整備され、かつ有効に利用されているか。

本学の施設設備は適切に整備され、それらは有効に利用されている。本学は、図 9-1-1 のような教育研究環境を有している。

図 9-1-1 本学の教育研究環境



関東学園大学

校地・施設

本学の校地面積は表9-1-1、校舎等の施設は表9-1-2のとおりである。

大学設置基準との比較では、校地面積134,741㎡、校舎面積12,425㎡上回っており、施設設備は適切に整備されている。

表9-1-1 校地・校舎面積

	関東学園大学	大学設置基準
校地面積 (㎡)	154,491	19,750
内運動場用地 (㎡)	61,507	—
校舎面積 (㎡)	23,312	10,886.44

表9-1-2 校舎等施設概要

建物	延べ床面積 (㎡)	主な用途
経済学部1号館	2,323.59	講義室 (8) 881.8㎡、演習室 (7) 328.5㎡、大学院講義室 (4) 174.4㎡、大学院演習室 (4) 134.1㎡、大学院自習室 (5) 171.9㎡、武道場、トレーニング室、非常勤講師室
経済学部2号館	1,777.52	講義室 (9) 985.5㎡、演習室 (6) 202.5㎡
法学部1号館	3,933.80	法学部長室、非常勤講師室、講義室 (12) 1543.9㎡、演習室 (7) 316.6㎡、会議室 (2)、教員研究室 (18) 375.5㎡)、教員サービスヤード
コンピュータセンター	1,155.31	講義室238㎡、実習室 (2) 476㎡、演習室 (1) 85㎡、コンピュータ機械室、開放端末室、情報資料室、
松平記念図書館・書庫	1,583.27	学生支援センター図書館事務室、書庫 (2)、閲覧室 (3)、演習室 (3)、大学院特別閲覧室
第1管理研究棟	2,112.88	理事長室、学長室、経済学部長室、事務長室、企画広報室 (事務局)、学生支援センター教務課、学生支援センター事務センター、会議室、応接室、教材開発室、教員研究室 (24) 618.72㎡、客員教授室
第2管理研究棟	1,658.00	学生支援センター就職課、広報課、会議室 (1)、教員サービスヤード (1)、教員研究室 (33) 560.83㎡

関東学園大学

学生食堂	1,697.76	学生食堂
学生控室	589.42	学生控室、教科書等販売所
レクチャーホール	888.40	講義室（4）
体育館	2,099.78	体育館、ロッカー室、シャワー室、 体育教官室
小体育館	630.00	体育館
教員宿舎	952.00	個室（41）
第1クラブハウス	730.08	学生支援センター学生課、保健室、 部室（15）
第2クラブハウス	733.35	部室（23）
屋外運動場	61,507	野球場、サッカー場2面、ソフトボ ール場
特別研修室	231.84	第1特別研修室、第2特別研修室

1. 研究室、教室

太田市は、日本でも最も暑い地域の一つであり、教育研究目的を達成するために全ての研究室及び教室に冷暖房を完備しており、より良い教育研究環境を整えている。

教員が使用する研究室は、専任教員については一人に1室を備え、パソコンを設置して、教員の教育研究環境を整えている。また、研究室は、オフィスアワーや学生面談等にも活用している。

教室については、多人数での講義が行なわれる講義室や、セミナー・演習科目等が行なわれる演習室が整備されている。演習室は、16室のうち6室にパソコン端末（1台）があり、ディスカッション後、プレゼンテーション資料をすぐに作成できるようになっている。また、演習室の16室のうち9室は、ディスカッションがスムーズに実施できるように、机の配置等を変更することが可能である。

2. 図書館

図書館の面積は、1,583.00 m²である。座席数は294席と、学生の学習及び教員の教育研究のために十分な座席数を満たしている。図書等蔵書冊数23万4,983冊、定期刊行物2,626種を保有し、経済及び法律関連資料は国内・国外を問わず同規模大学と比較しても遜色のない蔵書数となっている。

閲覧室及び書庫の蔵書管理、資料の受入業務、館内整理等の環境整備、閲覧・貸出し及びレファレンス業務等において利用者に資料の提供が適切に行なえるよう配慮している。図書館利用ガイダンスによるメディア・リテラシーの指導、図書館システムによる検索及びデータベースによる資料の提供、相互協力等のサービスにより、利用の活性化を図っている。

《関東学園大学松平記念図書館の概要》

項目	概要					
図書・資料の収蔵数	図書の冊数		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の所蔵数 (点数)	オンラインデータベース
	図書の冊数	開架図書の冊数(内数)	内国書 (和雑誌)	外国書 (洋雑誌)		
	234,983 冊	34,300 冊	1,624 種	1,002 種	1,241 種	5 種
学生閲覧室等	学生閲覧室数 ／座席数		学生収容定員	収容定員に対する座席数の割合 (%)	備考	
	3 室／294 座席		1,995 名	14.7%	学部収容定員 1,975 名 大学院収容定員 20 名	
過去 3 年間の図書の受入れ			19 年度	20 年度	21 年度	
	国内図書		3,270 冊	2,287 冊	1,274 冊	
	国外図書		774 冊	653 冊	469 冊	
	合計		4,044 冊	2,940 冊	1,743 冊	

《利用状況推移》

年度	開館日数	年間利用者数	奉仕対象者数	貸出者数	貸出冊数	貸出平均
平成 18(2006)	283	25,133	1,413	2,163	4,420	3.1
平成 19(2007)	283	21,939	1,355	2,016	3,672	2.7
平成 20(2008)	282	18,377	1,248	1,808	2,967	2.3
平成 21(2009)	259	15,752	1,188	1,363	2,549	2.1

3. 管理関係施設

第1管理研究棟に学生支援センター教務課、学生支援センター事務センターを設置。第2管理研究棟に学生支援センター就職課、広報課を設置。第1クラブハウス内に学生支援センター学生課を設置し、学生対応を行なっている。

4. 学生控室、学生食堂

学生の満足度向上のため、平成 20(2008)年 10 月に学生食堂をリニューアルオープンした。厨房内での調理が可能になり、温かい料理も提供できるようになった。また、トイレを新設し、女子トイレ内にはパウダールームを設ける等、大学内の学生生活を快適に過ごせるよう配慮した。学生控室内には自動販売機や図書購入スペースも設置している。

5. 運動場、体育館

本学は、推奨部活動として、硬式野球、男女サッカー、男女ソフトボール、柔道、陸上、男女バスケットボール部がある。野球場、サッカー場、ソフトボール場には、夜間照明設備を備えている。平成 18(2006)年度のスポーツマネジメントコースの開設もあり、これらの設備の利用率は高い。

平成 21(2009)年夏季休業中には、小体育館を改修し、さらにスポーツ関連の授業並びに部活動で有効に利用している。従来、小体育館にあった武道場を経済学部 1号館へ移設した。

なお、体育館においては、平成 21(2009)年度に遮光カーテンを整備した。

6. 情報サービス施設

本学の情報サービス施設及びIT環境は、活用に必要な整備数と適切なコスト配分を検討した上で、経営方針・教育方針に基づき、大学の各種検討の下、整備している。

現在整備されている教育用パソコンは、下記の表のとおりコンピュータ教室、視聴覚教室に設置され、授業の内容によって有効に利用されているほか、空き時間には、課題調査やレポート作成に活用されている。

また、貸出用のノートパソコン持込等による講義が可能な教室の整備や、教職員・学生が利用できる教材開発室も整備している。

《教育用パソコン設置場所一覧》

教育用パソコン設置場所	教室区分	パソコン台数	備考
コンピュータセンターC1教室	視聴覚教室	1	
コンピュータセンターC2教室	コンピュータ教室	76	月～金9：00～18：00
コンピュータセンターC3教室	コンピュータ教室	52	月～金9：00～18：00
コンピュータセンターC演習室	コンピュータ教室	28	月～金9：00～16：30 土 9：00～13：00
コンピュータセンター 開放端末室	コンピュータ教室	26	月～金9：00～21：00 土 9：00～17：00
法学部1号館311教室	視聴覚教室	1	
法学部1号館312教室	視聴覚教室	1	
法学部1号館314教室	その他	4	
法学部1号館337教室	その他	1	
法学部1号館338教室	視聴覚教室	1	
レクチャーホール511教室	視聴覚教室	1	
レクチャーホール512教室	視聴覚教室	1	
経済学部1号館124教室	コンピュータ教室	25	
経済学部2号館224教室	その他	1	

関東学園大学

図書館第1グループ学習室	その他	2	
図書館第2グループ学習室	その他	2	
図書館第3グループ学習室	その他	2	
研究室	研究室	44	
非常勤講師室	研究室	3	
スポーツ指導者室	研究室	7	
教材開発室	その他	2	
情報資料室	その他	5	
図書館	その他	3	
大学院特別閲覧室	その他	6	
第1特別研修室	その他	1	
貸出用	その他	6	

《教育用サーバ利用形態等》

利用形態	設置場所・台数
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学演習用サーバ：大学の英語の講義を行なう教材が入っているサーバ ・ 大学実習用サーバ：課題提出等で使用するサーバ ・ 学生・教員用サーバ：共有フォルダ、個人フォルダ 	コンピュータセンター 電算機室 3台
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学 e - S q u a r e サーバ1 ・ 大学 e - S q u a r e サーバ2 	短大1号館電算機室 2台

《コンピュータセンター設置パソコンの月別延べ利用人数》

平成21(2009)年4月～平成22(2010)年3月

設置場所/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
C2教室	1,802	2,707	2,663	3,087	166	196
C3教室	1,317	958	1,129	887	58	69
C演習室	375	580	779	854	9	75
開放端末室	2,050	2,766	3,376	3,339	283	472

設置場所/月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
C2教室	2,270	2,509	1,881	1,716	846	0	19,843
C3教室	637	665	461	453	353	0	6,987
C演習室	702	598	615	566	407	0	5,560
開放端末室	2,947	2,793	2,598	2,470	1,976	420	25,490

※ C2・C3・C演習室は、主に授業で利用するが、授業の空き時間にも利用可能
 情報基盤の提供

- ・ ネットワーク基盤

館林地区、太田地区、学外にあるデータセンターの3拠点を専用回線（WAN回線）

で結び、イントラネット環境を構築している。また、インターネット環境においては、館林地区からインターネット回線を結んでいる。建物間への接続は、太田地区においてはコンピュータセンター内の電算機室より、各棟に光ファイバーでLANが接続され、各棟内では屋内配線でクライアントノードを構成している。

経済学部1号館124教室以外の教室のどのパソコンからでも、学内ネットワーク、インターネットの利用が可能である。

- ・セキュリティ基盤

外部からの攻撃を回避するために、ファイアウォール機を設置している。ユーザーの不正アクセスを防ぐために、ユーザー認証を行なっている。

また、大学内に設置されている教員用と学生用パソコンに対して、アンチウイルス対策ソフトを導入している。教員と学生に安全で安定した教育環境を提供でき、情報教育の発展に寄与している。

ユーザー利用サービス

- ・ファイルサービス

学内ネットワーク上に教員用・学生用ファイルサーバを用意し、個人ファイルの保存ができるようになっている。また、申請によって教員や学生が共有のフォルダを作成することができ、共同学習における利便性も高いものとなっている。

- ・メールサービス

学生を対象としたメールサービス環境は、本学用にカスタマイズされたグーグル社のGメールサービスで構築されている。これらのサービスは、適切なメモリ容量があり、強力な迷惑メールフィルター及びインターネットが導入されている環境下であれば利用可能であることから、学生の利便性は高い。

- ・グループウェアサービス

本学では、平成10(1998)年度に、大学内での学生・教員・職員のコミュニケーションをより充実させるために、学生向け総合ポータルシステムeSquareを導入している。平成20(2008)年度には、新システムに移行し、継続して活用されている。なお、このシステムは、学外からインターネット経由で利用することも可能である。

eSquareには、講義や演習の情報が掲載されており、これらの情報は、学生が授業科目やセミナー・演習科目を選択する際の参考となるものである。また、eSquareでは、教員側から学生に課題の提示や参考文献の紹介などを行なうことができる。「授業資料」、学生側から教員に質問することのできる「クラスフォーラム」、課題の提出に使うことが出来る「課題提出」等の機能も、授業単位で備えられている。

新システム導入後は、教職員から学生にメール配信する対象情報が拡張された。学生が登録したメールアドレス（携帯電話・パソコン）から、配信情報に直接関

係ある学生のみを選別、それを配信先として指定して、休講情報、学生呼び出しを一括送信するようになった。また、電子掲示板で、履修、授業、試験に関する連絡、各課からの連絡、アルバイト情報、ニュース解説等を随時掲示している。また、Webによる履修登録や本学にきた求人情報を検索・閲覧できる機能により利便性も図られた。旧eSquareに比べて、学生の利用頻度は高くなり、学生との情報伝達のスピードの向上が図られ、また紙による掲示物の削減がさらに進んだ。

7. その他

・トイレ

平成 20(2008)年 3 月に法学部棟のトイレをすべて改修し、温水洗浄暖房便座を設置、トイレ内には暖房を完備した。女子トイレにはパウダールームを設けた。また、経済学部棟では、各 1 基ずつ和便器を洋便器に改修した。便器は節水型を採用し、従来の半分以下(130→80)の水量で処理できるようになっている。

・学生駐車場

自動車通学者のために、学生専用駐車場を完備している。4 箇所の駐車場を合わせて 547 台収容可能。使用料は無料としている。

・トレーニングルーム

平成 18(2006)年度に推奨部活動及びスポーツマネジメントコースの発足に伴いトレーニング室を整備、エアロバイク、トレッドミル等 20 種類の機器を設置した。これにより、スポーツマネジメントコースの実技授業や部活動でのトレーニングが実施できるようになり、基礎体力の向上に成果が出ている。なお、これらの機器は、一般学生も自由に利用することができる。

9-1-② 教育研究活動の目的を達成するための施設設備等が適切に維持、運営されているか。

施設設備等の維持・管理等に関する業務は、学生支援センターが主体となり、事務局管財課の協力の下、適切に運営されている。管理業務、清掃業務、グラウンド整備、電気設備業務、エレベータ保守業務、空調設備業務、消防設備業務、電話設備業務、高架水槽清掃・点検業務は、それぞれ専門業者と委託契約しており、学生支援センターの管理の下、適切な維持・管理が行なわれている。

情報基盤の維持管理業務は、学生支援センターが事務局企画広報室のもとにあるシステムセンターの協力を得て行なっている。

(2) 9-1 の自己評価

校地、校舎面積は、大学設置基準を十分に満たし、緑豊かなキャンパスとして教育研究活動に適した環境となっている。

マルチメディア教室の活用度は高いが、利用状況については、教員間によって若干偏りがある。また、貸出用パソコンの利用状況は良好で、講義等で活用されている。

ユーザーへの利用提供サービスについて、利用量や運用コスト面からの見直しを行なった。その結果、十分に活用されていなかったVPN(情報コンセント)、パソコン会議システム等については撤廃し、複数存在したファイルサーバを統合、個人フォルダ・共有フォルダを整備することで運用コスト削減を実現、メール機能は外部リソースであるGmailを活用することとした。

図書館の閲覧室(第1～第3)は、それぞれ図書及び逐次刊行資料が配架され、利用目的毎に適切に利用され、自習等の学習にも広く活用されている。

貸出利用率は、学生数の減少や活字離れに伴い、低下の傾向にある。利用率を上げる施策として、講義関連図書を中心に、学生第一義の選書を心がけ、新着図書のPR等広報面での強化や、図書館ガイダンスの活用等により、学生にとって図書館が魅力的で身近な存在になれる環境づくりに努めている。

図書館ガイダンスは、ツアー形式でクラス及び演習単位で随時実施している。特に1年次にフレッシュマンセミナーのクラス単位で行なう図書館ガイダンスでは、教員との連携をはかり、必要な情報を効果的な方法で探し、精査し、使用することができるように、図書館の様々なツール(オンライン新聞・雑誌記事等文献データベース含む)の使用方法を学ぶ、いわゆる図書館情報リテラシーを充実させる内容となっている。ガイダンス実施後には、各教員が課題を出し、学生に必要な資料を図書館で借りる機会が増えるよう、教員の協力を得て利用の活性化につなげている。

ハード面では、昭和63(1988)年より運用を行なってきた旧システムに代わり、平成21(2009)年度には図書館システムがリプレース、後期から新パッケージシステムによる稼働が始まった。これにより機能面での改善がなされたため、今後さらに図書館サービスの向上が見込まれる。

(3) 9-1の改善・向上方策(将来計画)

施設整備については、平成15(2003)年度に各建物の現状を調査し、平成16(2004)年度から平成21(2009)年度まで6年をかけて施設整備を完了した。今後は、毎年、建物・設備の予防保全の診断を行ない、不具合や損傷のある場合は応急処理で対応する。

学生のITリテラシーを育成・向上するため、平成14(2002)年度よりパソコンの設定、学生向けヘルプデスク、ホームページ作成等の業務に本学の学生をアルバイトとして採用している。今後はその担当範囲を徐々に拡大し、現在TAが担当している業務の一部や、ホームページの高度なシステム改修等にも従事させ、学生が課外でIT能力を育成・向上するための機会をさらに広げていく予定である。

情報基盤整備については、計画的に実施している。今後も、学生のニーズ、システムの維持・管理、コスト削減、また予算を平準化するための観点から、中期の情報化計画を立て整備を行なっていく。

9-2 施設設備の安全性が確保されていること。

《9-2の視点》

(1) 9-2の事実の説明(現状)

9-2-① 施設設備の安全性(耐震性、バリアフリー等)が確保されているか。

施設設備は、学生支援センターが管理し、その安全性は十分に確保されている。不具合箇所があった場合は、速やかに対応している。

施設に関する危機管理体制は、関東学園大学「危機管理基本マニュアル」に基づき、危機管理のための体制を組織、緊急時の対応について細部を定め、危機管理に当たっている。

空調、消防設備、水道、エレベータ等の設備については、専門業者に管理を委託し、適切に対処している。

体育館、学生控室に AED(自動体外式除細動器)を設置し、緊急時に備え、主として部活動関係者に対して使用方法の講習会を実施している。また、本学の位置する太田市は、関東平野の北部にあり、落雷の多い場所でもある。そのため学生が安全で安心した屋外活動を行なうことができるよう、落雷情報システムを導入している。本学を中心として半径 20 k m 及び半径 10 k m 以内で落雷を感知すると、学生課や屋外部活動の指導者の携帯電話等へメールが配信されるシステムとなっている。

平成 17(2005)年 12 月に、すべての建物の耐震診断を実施した。耐震整備が必要な建物については、既に修繕工事を完了している。

身障者用トイレは、車椅子ごと入れるトイレを第 1 管理研究棟に 1 基設置している。第 1 管理研究棟、法学部棟の出入口にはバリアフリー化がなされている。また、平成 21(2009)年度には図書館、第 2 管理研究棟、平成 22(2010)には学生食堂の出入口にスロープを設置した。なお、法学部各階のトイレには、男女ともに 1 基の介助バーを設置している。

アスベスト(吹付け)については、平成 17(2005)年 11 月に調査点検を行なった結果、すべての建物において、使用は認められなかった。

平成 20(2008)年度には、正門の設置、道路の舗装、芝地の拡大及び植樹等の構内整備を実施するとともに、車両の乗り入れを規制(原則として救急車両、消防車両以外の乗り入れは不可)し、安全で快適な学内環境を確保することに努めた。

(2) 9-2 の自己評価

本学の施設、付帯設備等の安全性については、学生支援センターが主体となり事務局管財課と連携し、維持・管理、法定点検、保守等を行ない適切に確保している。

管理業務は業者に委託しており、大学勤務者に対する教育・指導は確立されている。

空調設備は満足できる状況である。また第 1 管理研究棟、第 2 管理研究棟、法学部 1 号館、図書館、学生食堂にはスロープの設備が整っており、逐次計画に沿ったバリアフリー対策を講じている。

(3) 9-2 の改善・向上方策(将来計画)

今後も、さらに学生が安心して学習できる環境整備を行ない、学生へのサービス向上に努める。また、バリアフリー化については、順次計画的に整備していく予定であるととともに、施設設備の安全性の確保に努めていく。

9-3 アメニティに配慮した教育環境が整備されていること。

《9-3の視点》

(1) 9-3の事実の説明（現状）

9-3-① 教育研究目的を達成するための、アメニティに配慮した教育研究環境が整備され、有効に活用されているか。

教育研究環境はアメニティに配慮して整備されており、それらは有効に活用されている。本学は「緑に囲まれたキャンパス」をモットーに緑化計画を進めている。特にキャンパス内に広範囲に敷きつめられた芝生は、学生に安らぎを与えるとともに、北風が強く吹く冬場には、土埃の飛散も抑制している。学生が屋外で憩う所には、ベンチを配置し、一部喫煙所を設けている。建物内はすべて禁煙としている。また、全棟全教室とも冷暖房が完備されており、快適な研究環境となっている。

宿泊設備が整っている特別研修室が2棟あり、セミナー、演習科目での活動やクラブ、同好会活動等で活動する際に利用できるようにしている。平成20(2008)年10月には、学生食堂がリニューアルされた。このほかに、学生控室には紀伊国屋書店があり、教科書や参考書、雑誌、文具が購入できるようになっている。

平成19(2007)年度には、トイレを改修し、法学部棟トイレは全階に暖房、温水洗浄暖房便座を整備し、女子トイレにはパウダールームを設置した。経済学部棟では、和便器をシャワートイレへと改修した。

平成21(2009)年に小体育館の改修工事を実施した。工事前は武道場として、限られた部活動者のみが使用していたが、武道場を経済学部1号館へ移設し、小体育館をスポーツ関連授業や室内競技の部活動等、多目的に利用できるようにした。

(2) 9-3の自己評価

施設設備については、学生支援センターが主体となり、事務局管財課と連携を取りながら、日常及び定期的に管理、法定点検・保守を行っており、有効に活用されている。

大学内では、学生支援センターと管理業務委託業者が、適切に施設の保守点検・管理を行なっている。

学生食堂を平成20(2008)年にリニューアルオープンし、快適な環境整備を行なった。

(3) 9-3の改善・向上方策（将来計画）

教育研究環境を補完する施設設備等は毎年度、予防保全の診断を行ない、その結果に基づいて整備に努め、豊かで快適な空間を維持していきたい。また、学生食堂については、学生食堂委託業者との調整や、学生アンケート等を行ない、利用者のニーズに応じていきたい。

[基準9の自己点検]

本学の校地・校舎は、大学設置基準の面積を十分に満たしており、教育研究に十分なものである。施設設備については、教室、図書館、体育施設、情報関連施設等、適切に整備されており、施設設備は学生や教職員により有効利用されている。また、施

設は、平成 16(2003)年から平成 21 年(2009)年にかけて計画的(資料編参照)に整備を実施したことにより、安全性が確保されている。

[基準 9 の改善・向上方策(将来計画)]

安全な教育研究環境を維持するため、管理を適切に行ない、建物の改修、バリアフリー対策を計画的(資料編参照)に進めていく。また、必要に応じて適切な整備を行なっていくとともに、学生の満足度向上に寄与する施設整備の充実を図る。